

2023年3月31日(金)

老球の細道723号

3月の言葉

会津バスケットボール協会 室井 富仁

雪かきトレーニングを一度もすることなく3月を終える。雪かきで汗をかき、昼食前のビールが何よりの楽しみであったが願いかなわず。大雪で困難を強いられた人たちには叱られるが、作家宮本百合子言うように、うららかな春は厳しい冬の後に来てほしかった。

スポーツ界では野球のWBCで日本中が多いに沸いた。野球にはそれほど関心がない私さえ野球漫画以上のドラマチックな準決勝さよなら逆転劇には度肝を抜かされた。サッカーワールドカップ以上の「ブラボー!」。改めて大谷翔平選手から夢を持つことの大切さ、栗山監督の選手を信じ切ることの素晴らしさを教えてもらった。8月のバスケットボール・ワールドカップはサッカー、野球を超えることができるだろうか。

1・テレビから

◆「達成するまでそれは不可能に見える」〈NHK 高校講座「世界史」:アフリカ諸国の独立〉:南アフリカから人種差別撤廃を成し遂げたネルソン・マンデラの言葉。不可能と思えることもあきらめずに継続、チャレンジしていけばいつか達成できる。スポーツの世界でもこの言葉に類するできごとはいくつもある

◆「前時不忘 後事之師」〈NHK・BS1「今日が人生最後の日なら何を伝えたいか」〉:歴史家保阪正康氏の「最後の講義」で受講生に伝えた言葉である。タモリが発した「新しい戦前」の兆候が見え隠れする昨今、改めて歴史を学ぶことの重要性を教えられた。

2・読書から

◆「恥辱はしばしば信ずることのできないことを、人間にさせることがある。人間をして短期間に驚くべき偉大なことをなさしめるのは多く恥辱の力である」〈梅原猛『聖徳太子Ⅱ憲法17条』小学館〉:名もなく能力もない雑草であった私も、バスケットボールその他の原動力は悔しさと恥ずかしさだった。負けたくない、馬鹿にされたくない。常に「恥をかけ」。

3・新聞等から

◆「昨日の夢 今日の実現 くじけるな」〈朝日:朝日川柳〉:近代ロケットの父・ゴダードの言葉をもじった川柳である。成功者とそうでない人の違いは、途中であきらめるか最後までやり通すかである。原理原則は非常にシンプル。

◆「犠牲を払っていると思ってやったことは、必ず誰かを犠牲にしている」〈朝日:折々のことば:むのたけじ〉:ボランティアは自分のために意味があるからやる。コーチも教えさせていただいているという謙虚さが必要。自分を粗末にする人は他人も粗末にすると言う。

◆「飛ぶことができるのは、心の底からそうしたいと願った者が、全力で挑戦したいときだけだ」〈朝日:天声人語〉:小説『カモメに飛ぶこと教えた猫』でゾルバという黒猫がカモメのひなに空を飛ぶことを教えている時に発した言葉である。中学校の休日部活動が来春スタート。やる気、本気の生徒が集まるのか、指導者はやる気や能力を引き出せるのか。